ぎんれい句会・令和元年五月十日(第二百六十一回)

大洞に木霊祀れり楠若葉	手作りの土筆の干菓子お茶席に	平成を遣らずの雨と惜しむ春	花梨の花少女の未来を夢に見る	見下ろせば瀬音に乗りて花筏	涸池に一本だけの花あやめ	一芝居あげたる小屋や落椿	春北斗聞かれたかしらひとり言	壊れゆく記憶の箱や翁草	蝶や蝶荘周輪廻の姿かや	畝立の粗方終り山笑う	余生とて余花でありたし夕明り	葉桜や吉野も奥の行者径	たんぽぽの全き穂絮吹かで去る 主宰
仲田眞輔	香春早苗	沖本旡辺子	許斐國照	山下進	藤本武子	中村建生	大下絹子	太田實	加藤善巳	猿橋二三雄	國永靖子	三枝邦光	細野恵久
国際 1 7 期	国際 1 7 期	国際 1 7 期	食文15期	国際 1 5 期	国際 1 5 期	国際 1 5 期	国際 1 5 期	国際 9 期	美 工 8 期	福 祉 8 期	音 文 6 期	美工 ₅ 期	福 祉 3 期
別	戰	海	乳	緑	草	春	海	今	満	売	薫	日	駆
れると決めて牡丹の茎を折る	なき御世平成の春惜しむ	風の塩飽の春山魔崖仏	日車あやす姉妹に花吹雪	さす窓の花嫁手を振りて	半餅や御世百代の農の里	4 塵や棚に未完の設計図	#市立つ立山連峰真向ひに	7城の塚に飛び交うしゃぼん玉	! 員の車内賑わう五月晴	兄却の洗車に流す玉の汗	*風や切り岸埋める蔓ハーブ	口を浴びて五体投地の青蜥蜴	け抜けるゼッケン追うや春疾風